

## 一般社団法人コミュニティシネマセンター 2023(令和5)年度事業報告

### 1. 受託事業

#### [1] 映像アートマネージャー育成のためのワークショップシリーズ2023

(文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業・次代の文化を創造する新進芸術家育成事業))  
継続的に実施している人材育成事業。全国コミュニティシネマ会議、上映者育成のための講座・ワークショップ、ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画、Fシネマ・プロジェクトという4つのプログラムを柱とする。シンポジウムやワークショップ、講座等の事業を通して、地域の上映活動を担う人材を育成し、ネットワークの構築を進める。

##### (1) 全国コミュニティシネマ会議2023

実施日:2023年9月22~23日 会場:高崎芸術劇場(群馬県高崎市)ほか  
参加者:210人(出演者・スタッフ含)

R5年度の全国コミュニティシネマ会議は、群馬県高崎市中で開催、全国各地から210名の参加者を迎えることができた。

1日目の「プレゼンテーション+ディスカッションI:アートとまちづくりの現在」では、東日本大震災後の石巻の事例などをもとに、映画、アートとまちづくりの可能性を話し合った。「プレゼンテーション+ディスカッションII:再生する映画館(コミュニティシネマ)!~映画館はみんなのもの~」では、コロナ禍を経た映画館へのアンケート調査の結果とふたつのプレゼンテーションを元に、コロナ後の新しい映画館・上映者の在り方を話し合った。「プレゼンテーションマラソン2023」では群馬県内を中心に9団体の報告を聞いた。

2日目は3つのテーマを設けて分科会を実施した。また、2日目の午後には、阪本順治監督をゲストに迎え、高崎電気館で高崎でつくられた映画3本を上映した。

##### プレゼンテーション+ディスカッションIアートとまちづくりの現在

橘豊[音楽・映画プロデューサー/高崎芸術劇場アドバイザー]/松村豪太[一般社団法人ISHINOMAKI2.0代表理事/リボン・アート・フェスティバル実行委員会事務局長]/立木祥一郎[合同会社tecoLLC代表/コミュニティシネマセンター役員]

司会:志尾睦子(たかさきコミュニティシネマ代表)

##### プレゼンテーション+ディスカッションII再生する映画館(コミュニティシネマ)!~映画館はみんなのもの~

樋口智巳[小倉昭和館]/酒井幸治[ミッドランドスクエアシネマ]/渡辺祐一[配給会社東風]

進行:北條誠人[ユーロスペース] プレゼンテーション:岩崎ゆう子[コミュニティシネマセンター]

##### プレゼンテーションマラソン2023

たかさきコミュニティシネマ(高崎映画祭・シネマテークたかさき&高崎電気館・高崎フィルムコミッション)/スタジオ6.11/前橋シネマハウス/伊参スタジオ映画祭/邑の映画会/あまや座(茨城県那珂市)/310+1cinema project(茨城県水戸市)/「福島芸術文化推進室」(経済産業省)/「日韓映写技師ミーティング in 福岡」(福岡市総合図書館)

##### 分科会1:地域の『国際』映画祭を考える

堀越謙三(新潟国際アニメーション映画祭実行委員会委員長)、山下宏洋(イメージフォーラム・フェスティバルディレクター)、橘愛加(Cinema at Sea - 沖縄環太平洋国際フィルムフェスティバル)

進行:志尾睦子(高崎映画祭プロデューサー)

##### 分科会2:フリーディスカッション どうする映画館(コミュニティシネマ)?!

⇒上映者育成のための講座・ワークショップ

##### 分科会3:フィルムの可能性~映画の魅力を知ってもらうための試み~

⇒上映者育成のための講座・ワークショップ

## (2) 上映者育成のための講座・ワークショップ

### - 上映振興制度のあり方を考える講座：

#### フリーディスカッション どうする映画館(コミュニティシネマ)?!

実施日：2023年9月23日 実施会場：高崎市役所会議室(群馬県高崎市)

3年間のコロナ禍を乗り越えた映画館だが、観客数はコロナ前の10~20%減という状況が続く。様々な支援もなくなり、デジタルシネマ機の更新も待ったなしの状況、まさに「どうする！」と迫られる日々が続く映画館の思いを語り合い、共有できる「何か」を見出すためのディスカッションを行った。

進行：北條誠人、山崎紀子(シネ・ヌーヴォ支配人/コミュニティシネマセンター理事)

### - アートマネジメント・ワークショップ：

#### フィルムの可能性~映画の魅力を知ってもらうための試み~

実施日：2023年9月23日 実施会場：高崎市役所会議室(群馬県高崎市)

フィルムはモノとして触れることができる点がデジタルと決定的に異なる。フィルムは、実際に見る、触る、そして原理を知ること、映画への興味を広げることができる魅力的なツールでもある。いくつかのフィルムワークショップや上映会を紹介するとともに、参加者も体験できるワークショップとした。

登壇者：神田麻美(映写技師)、郷田真理子(フィルム技術者/川崎市市民ミュージアム学芸員)、松本圭二(福岡市総合図書館 文学・映像課映像管理員)

## (3) ミニシアター・コミュニティシネマ連携企画の推進

### ①「こども(若年層)と映画」プログラム

「こどもと映画プログラム」では、若年層(小中高生~大学生を含む)を対象とする上映会を定期的に行う映画館・コミュニティシネマの増加を促すため、以下の事業を行った。「夏休みの映画館」と連動した形で実施。

#### - 「こどもと映画プログラム」ネットワークの構築

子ども向け上映会をより魅力的なものにするための方法(子ども向けの解説、映写室見学、簡単なワークショップ等々)を考え、情報やノウハウを共有し、新しいプログラムをつくるためのミーティングを定期的に行い、ワークシートの作成などを共同で行っている。

#### - 上映作品資料(鑑賞ノート/ワークシート)の作成

2023年度は「夏休みの映画館」のために『世界のアニメーション作品集1』、『音のない世界で』(ニコラ・フィリベール監督)の2作品の鑑賞ノート(ワークシート)を作成、全国各地の子ども向け上映会において配布することができた。

#### - 夏休み子ども映画館(上映会)の実施

全国各地のコミュニティシネマが連携して夏休みに若年層(子ども向け)の上映会を開催する「夏休みの映画館」。3年目の2023年は、全国8会場で開催、上映会には約1000人(2022年は7日間で1013人)の参加者を迎えることができた。(大学生以下30%)

日程：2023年7月29日~8月27日(上映会 各会場4日間)

料金：500円均一(高校生以下)

会場：シネマテークたかさき(群馬)、東京都写真美術館、横浜シネマジャック&ベティ、大阪シネ・ヌーヴォ、元町映画館(神戸)、熊本Denkikan、ガーデンズシネマ(鹿児島)、松本シネマセレクト 8会場

参加者 約1000名

上映作品

**世界のアニメーション作品集**(カナダ国立映画制作庁NFB、山村浩二作品集) 短篇7作品

**音のない世界で**(1992年/ニコラ・フィリベール/ドキュメンタリー)

**ルパン三世カリオストロの城**(1979年/宮崎駿/アニメーション)

**サイレント映画 活弁・演奏付上映** 各会場ごとに企画

## ② 若手監督作品上映推進プロジェクト

実施期間：2023年7月～2024年2月 実施会場：全国各地の映画館・上映団体6会場で実施

若い監督や製作者によるインディペンデント映画の上映を盛り上げるため、監督や出演者等によるトークや舞台挨拶等のプログラムを企画、実施。出演者旅費を負担した。

観客数計 604人（のべ8会場）

実施日・会場・内容：

- ・2023年7月9日 | 第七藝術劇場(大阪) | 『絶唱浪曲ストーリー』 | 川上アチカ(監督)
- ・2023年10月14日 | 新潟シネウインド | 『さよならエリュマントス』 川瀬陽太(俳優)、山口幸彦(プロデューサー)
- ・2023年10月14日 | シネマポスト (下関) | 『遠いところ』 | 工藤将亮(監督)
- ・2023年10月31日 | シネマ尾道 | 『福田村事件』 | 井浦新、永山瑛太(俳優)
- ・2023年12月22日 | 松本シネマセレクト | いずれあなたが知る話 | 小原徳子 (脚本家)
- ・2023年12月28日 | 大阪シネ・ヌーヴォ | 『はるねこ』『はだかのゆめ』 | 甫木元空(監督)
- ・2024年1月19日 | 松本シネマセレクト | 『ピストルライターの撃ち方』 | 眞田康平(監督)
- ・2024年2月3日 | シネマポスト (下関) | 『誰かの花』 | 奥田裕介(監督)

## (4) Fシネマ・プロジェクト

デジタル化が進行する中でも、映画のオリジナルの形態であるフィルムでの上映環境を保持しつづけるためのプロジェクト。R5年度は、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供・ネットワークづくり、フィルム映写技師の育成のためのワークショップ、Fシネマの魅力を広く伝える上映会を実施。

### - Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営。

### - フィルム映写ワークショップ/シンポジウム：日韓映写技師ミーティングin福岡

実施日：2023年10月27～29日 実施会場：福岡市総合図書館映像ホールシネラ(福岡県福岡市)

映写ワークショップは「移動映写機ワークショップ(中級)」「フィルム映写ワークショップ基礎編」を実施。いずれも定員を大幅に超える申し込みがあった。韓国からも多くの参加者を迎えることができ、充実したワークショップを実施することができた。基礎編には、福岡市内の大学生など18人が参加、未来の映写技師の育成につながるイベントとなった。

シンポジウムでは、日韓それぞれのフィルム上映の現状について詳細なプレゼンテーションが行われ、映写技師を中心にディスカッションを実施。幅広い層に、「フィルム」上映の意義と現状を知らせることができた。

10月27日 移動映写機ワークショップ(定員8-10名) 参加者 14人

10月29日 フィルム映写ワークショップ 基礎編(定員18人) 参加者18人、見学者、スタッフ45人

10月28日 シンポジウム「日韓映写技師ミーティング～映写技師という仕事」 参加者89人

映画上映とミニ・レクチャー 映画『ゴビを渡るフィルム』(2001/監督：D.ツェンドルジ、T.サラントヤー) 福岡市総合図書館所蔵作品

ミニ・レクチャー「フィルムで観る映画について」 松本圭二(福岡市総合図書館)

シンポジウム「日韓映写技師ミーティング～映写技師という仕事」

登壇者：キム・ソンウク(プログラムディレクター/シネマテーク・ソウルアートシネマ)/神田麻美(映写技師/Fシネマプロジェクト)/石井義人(映写技師/映写技師会議イン福岡・準備会)ほか

### - フィルム上映会の実践

① 2023年9月23日 実施会場：高崎電気館(群馬県高崎市) 参加者：130人

全国コミュニティシネマ会議に合わせて開催。高崎市で制作された映画3作品を上映。侯孝賢監督『珈琲時光』は35mmフィルムで上映。

上映作品：『高崎での話』（1951年/RKOパテ社）/『珈琲時光』（2004年/侯孝賢）/『家族のレシピ』（2017年/エリック・クー）/オムニバス映画（『2001映画と旅』（2001年/黒沢清）、『新世界』（2001年/阪本順治）、『すでに老いた彼女のすべてについては語らぬために』（2001年/青山真治）

上映後、阪本順治（監督）トーク

② 2023年10月27-29日 福岡市総合図書館映像ホールシネラ(福岡県福岡市) 参加者：267人

上映作品：『ゴビを渡るフィルム』（2001年/D.ツェンドルジ、T.サラントヤー）

『家族』（1970年/山田洋次） 『国際市場で会いましょう』（2014年/ユン・ジェギョン）

## [2] 「映画上映活動年鑑2023」の作成

(文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（次代の文化を創造する新進芸術家育成事業）

)

### 「映画上映活動年鑑2023」 内容

#### I 映画館での上映

- (1) 概況
- (2) 公開本数・公開作品
- (3) 諸外国との比較[2022]
- (4) 都道府県別概況
- (5) 全国映画館リスト2023

#### II 公共上映

- (1) 全国映画祭リスト2023
- (2) 公共の映画専門施設（シネマテーク）及び上映事業を行う美術館
- (3) 映画館以外で行われる上映活動一覧

#### III 特集1 | コロナ後のコミュニティシネマ

全国コミュニティシネマ会議採録

再生する映画館～映画館(コミュニティシネマ)はみんなのもの～/小倉昭和館の再建/シネコン「ミッドランドスクエア シネマ」の試み

資料：映画館の経営状況と今後についてのアンケート

#### IV 特集2 | フィルム上映の現状を考える—採録：日韓映写技師ミーティングin福岡

- (1) フィルムで見る映画について
- (2) 日本におけるフィルム上映の現状
- (3) 韓国におけるフィルム上映の現状
- (4) ディスカッション採録 | 映写技師という仕事

#### V 資料

地方別上映施設地図/都道府県別上映施設一覧

#### VI 上映に関わる用語集

## 2. 自主事業

### [1] 「SAVE the CINEMA!」事業

#### (1) コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、文化庁や他団体と連携を図り、必要な活動を行った。

#### (2) コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウス・プレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウス・プレス）芸術電影館通信」を運営。

##### ● 2023年度のArticles & Reports:

2023年4月21日 現代アートハウス入門採録：『書かれた顔』：甫木元空・須藤健太郎

2023年4月28日 現代アートハウス入門採録『書かれた顔』：小田香・菊池信之

2023年5月17日 全国コミュニティシネマ会議ディスカッション「上映活動支援制度」を実現するために 採録

2023年5月24日 現代アートハウス入門採録『セザンヌ』：深田晃司

2023年5月26日 現代アートハウス入門採録『SELF AND OTHERS』：草野なつか・小森はるか

2023年5月30日 現代アートハウス入門採録『SELF AND OTHERS』：想田和弘

2023年7月28日 フランスにおける「映画館のサブスク制度」井上遼

※2023年度の「Arthouse Press（アートハウス・プレス）芸術電影館通信」月別アクセス数

4月/2686 5月/4434 6月/2547 7月/3213 8月/2647 9月/2082 10月/2078

11月/2270 12月/2395 1月/2925 2月/2586 3月/2694

※参考 2024年度6月時点のアクセス数（4～5月で4つの記事を公開） 4月/4415 5月/4308

#### (3) 上映振興策についてのオンラインミーティング（正会員向）

9月の全国コミュニティシネマ会議において、「今後、継続的に上映振興策について話し合う場を設ける」ことが提案されたことを受けて、2023年12月より「上映振興策についてのオンラインミーティング」を隔月で開催。毎回約30人程度が参加している。

#### (4) コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度を検討した。

##### - ウェブサイトの改訂、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

##### - ミニシアター・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。（再検討が必要）

##### - デジタルシステムの更新に関する情報提供・情報共有

### [2] こどもと映画 プログラム

#### (1) 「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション！」 国立映画アーカイブ共催事業

2023年5月6～29日（10回） | 上田映劇 | 『パンダコパンダ』（1972年/高畑勲）206名

2023年5月20日 | 八丈島三根公民館 | 『パンダコパンダ雨降りサーカス』（1973年/高畑勲）50名

2023年8月1日 | 窪川四万十会館(高知) | 『パンダコパンダ』（1972年/高畑勲）72名

2023年8月2日 | シネマ5（大分） | 『パンダコパンダ』（1972年/高畑勲）44名

2023年8月2日 | FM宝塚835倶楽部アピアホール |

『パンダコパンダ』（1972年/高畑勲）『パンダコパンダ雨ふりサーカス』（1973年/高畑勲）58名

2023年11月3日 | 邑の映画会(群馬県邑楽町) | 『太陽の王子ホルスの大冒険』（1968年/高畑勲）270名

合計：6会場 上映会参加者…700名

- 新しいプログラムの策定…「スクリーンでみる日本アニメーション！」に続くプログラムを検討する。

- ウェブサイト「こども映画館」の更新

(2) 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 文化施設等活用事業」の実践に向けた準備

[3] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画/批評月間《フランス映画の現在》vol.5 の巡回

日仏学院が、日本でなかなか見られないフランスの最新作や隠れた名作を紹介する特集「映画/批評月間～フランス映画の現在」。vol.5は、“スペシャル・エディション”として、90年代から現在までフランス映画を牽引してきたアルノー・デプレションの特集として開催された。コミュニティシネマセンターでは、9月半ば以降、上映された作品の中から10作品程度を、大阪・京都を皮切りに全国に巡回した。

巡回：

巡回会場：

2023年10月28日～11月5日（及び9月18日）大阪シネ・ヌーヴォー 来場者数433人

2023年10月27日～11月13日（及び9月19日）京都出町座 来場者数223人

2023年11月18日 松本シネマセレクト

2024年1月24日～2月9日 広島市映像文化ライブラリー 来場者数963人

2024年2月16日～2月22日 シネマテークたかさき 来場者数78人

合計 1697人

(2) ジョージア映画祭

ジョージア映画の歴史的傑作の数々を一堂に集め、デジタルリマスター版で一挙上映する「ジョージア [グルジア] 映画祭」。2022年版の巡回を継続するとともに、「ジョージア映画祭2024」の計画を立てた。

主催：ジョージア映画祭実行委員会 企画：はらだたけひで

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

フレデリック・ワイズマン監督作品、英国ドキュメンタリー傑作選、その他、当センターが保有する作品の貸出を行う。